

* 「クリスチャンは何を着るべきか」という問い

・初代教会： 周囲の人々と同じようでありながら特異性も兼ね備える。

それは人々を魅了することあれば、逆に反感を買って迫害を受けたりもした。

・紀元4世紀、ローマ皇帝コンスタンティヌスの改宗、キリスト教がローマの国教へ・・・これが与えた影響： 外見においても名誉、富、暴力に対してもクリスチャンは特異性を失った。

・紀元6世紀、勅令によってキリスト教徒であることが義務づけられた。

聖職者も政界人も神の働きと帝国の繁栄を同一視。

その結果、「クリスダム」(キリスト教文明、キリスト教界)が 1500 年続いた・・・教会と国家を結託させ、イエスの教えを一蹴した。

カトリックの中世を築き、ルターやカルヴァンの世界観に影響、キリスト教神学者や牧会者の考え・著作に浸透して日本にまで影響を与えた。

・現在： 「クリスダム」の衰退。 世俗化の止められない流れ。→ アナバプティズムの発見。

* アナバプティズムとは何か？

「1520 年代にヨーロッパの中央から北部に巻き起こった、強権的クリスダムに挑戦した運動。

16世紀のアナバプテストはイエスの教えと生き方をキリスト者の生き方の中心にしようとした。」 迫害に遭ってもイエスに従うことをやめようとしなかった人々。・・・16世紀に多くの殉教者が出た。(クリスチャンによって迫害されたクリスチャン。)

* 英国で発生したネオ・アナバプテスト運動

歴史的に、英国にはアナバプテストは存在しなかった。

先入観と無関心によって歴史の片隅に追いやられていた。

1980 年代・・・クリスダムが崩壊し、教会出席者が減少する現実・・・神学と現実の生活の乖離。

→再洗礼派の人々のイエスに従う献身に希望を発見。

* 英国におけるアナバプテストの実体

1. 超教派

2. 協調的で横割り

3. イエス・キリストに従うという点(再洗礼派の最大の貢献)

4. クリスダムの分析を提供する

5. クリスチャンはそれぞれの文化において各自の服装を選択しなければならないと考えている。

彼らの問いかけ・・・「これはあなたの文化において、イエスに忠実に従うための助けになりますか？」